

私の評価方法

今回のテーマ

- 「私の評価方法」について
- 症状改善のための評価の組み立て方
- 原因ではなく"引き算"で考える

前提

- 最重要:原因を探さない
- 症状の原因特定はほぼ不可能
- 完全にわかるなら誰でも億万長者
- 治療法が乱立する理由＝原因は特定できない

ではどうするか?

- 結論:引き算で考える
- 感情リリースと同じロジック
- 「影響を抜いた時にどう変化するか?」を見る

引き算の具体例

- 感情の影響を抜く
- 筋肉の影響を抜く
- 関節の影響を抜く
- → 抜いた時の反応が評価ポイント

評価カテゴリー

- カテゴリーは自由
- 私の例:感情 → 内臓 → 血管 → 自律神経 → コア → 脊柱 → 四肢関節

判断の仕組み

- コアの影響を抜いて改善 → コアが問題
- 内臓の影響を抜いて改善 → 内臓が問題
- すべて"引き算"で明確化

引き算の優先順位

私の順番(影響が大きい順)

1. 感情
2. 自律神経
3. 内臓
4. コア
5. 脊柱
6. 四肢関節

影響の連動関係

- 感情 → 交感神経へダイレクト影響
- 自律神経 → 内臓へ影響
- 内臓 → コア機能へ影響
- 脊柱 → 四肢関節へ影響
- → すべて連動している

血管について

- 血管は交感神経の支配を直接受ける
- 交感神経を整えれば大きな問題は残らない
- → だから私は血管を重視しない

最重要:主訴評価

- 引き算評価の成否は主訴評価で決まる
- 主訴評価が曖昧 → 治療効果判定も曖昧
- 再現性のある基準をつくる

評価～引き算～変化判定の流れ

- 主訴を丁寧に評価
- 各カテゴリーを「抜く」
- 大きく変化した部位＝最大の原因領域
- シンプルで強力な評価法

まとめ

- 原因を特定しようとしな
- 「引き算」で評価する
- 主訴評価の精度がすべてを決める